

アーカイブ Data Report NO. 42

(2020年9月13日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

デジタルアーカイブは、どのように使われているか（3）

～データ処理機能を活用した課題解決～

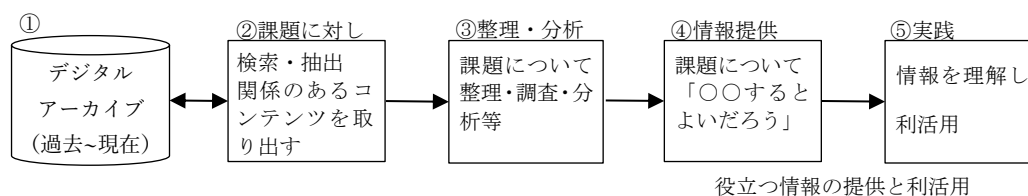
後藤 忠彦、眞喜志 悦子、櫛 彩見（岐阜女子大学）

人々のもつ多様な課題に対し、

「デジタルアーカイブの過去～現在までの保管コンテンツを使い、いかに解決の方策を見出すか」
このような使い方が2010年頃から始まった。

1. デジタルアーカイブを用いた処理の方法

課題の解決のための情報提供の概要は、次に示すように、デジタルアーカイブに保管されている資料から役に立つ情報を取り出し、整理・分析したものを情報として提供し利活用してもらうことが大切である。



(1) 過去～現在の資料（デジタルコンテンツ）の保管…メタデータ付

企業、研究機関、公的機関、図書館、博物館、学校等で過去から現在までの資料（デジタルコンテンツ）にメタデータを付けて保管する。メタデータは、課題に対応した索引語、場所、年月など、デジタルコンテンツを取り出す条件に対応したキーワードや属性を示す用語を付ける必要がある。

(2) 課題に対し検索（キーワード等を用いて）…関係のあるコンテンツを抽出

課題に関連する索引語を選定し、デジタルアーカイブから関連資料を、検索・抽出する。

索引語は、1語の場合もあるが、課題についていろいろな観点から調べる必要がある場合は、複数の索引語で検索・抽出する。

(3) 整理・分析（役立つ情報を求める）…サーチャー・アナリストの仕事

検索・抽出した資料（デジタルコンテンツ）を内容別や方法別で整理する。整理したいくつかの資料を調べる、または数値データ等を分析し役立つデータ・方法などを見出す。サーチャー・アナリストには、課題解決する専門分野への理解とデジタル・アーキビスト・上級デジタル・アーキビスト等の能力が必要である。

(4) 情報提供 (利用者に使えるようにして解決の内容・方法等を渡す) …コーディネータの仕事

整理・調査・分析して得られた課題解決のための情報は、活用する環境条件に合わせないと直接利用者に提供しても使えないことがある。そのため、提供された情報を実践で活用できるように構成し利用者に渡す。コーディネータには、実践状況をよく知り、提供された情報を加工、変更、解説などの処理ができる能力が必要である。

(5) 実践 (利活用)

実践の環境、条件、活用する対象物、組織、機関、人等の状況に対し、コーディネータが使えるように課題解決の情報を加工し、提供した資料等を使って実践 (利活用) する。

簡単な事項では、加工なしの資料・データ等で実践可能である場合が多い。しかし、課題によっては実践にあたり関係者の研修や指導を必要とする場合もある。このため、どのようなステップ (順序) で研修・指導するか、企業・教育機関等では検討・準備すべきである。(新しい視点での資料提供は、関係者への説明、研修等の不足により役に立たないことがある。どの分野でも注意すべきである。)

2. 腑に落ちる資料の提供の必要性

このような資料 (手引き、プリント類) を渡されても、多くの人が本当にそれでよいのか不安になる。不安をもって使えば、決して良い結果は得られない。

そこで、どのような資料を提供すべきか試行錯誤された結果、

使い手が「腑に落ちる資料の提供」が必要であり、

単に理解するのではなく、**「そうか、使えるな! 実践してみよう!」**と実践に本気で結びつけ、実行できる資料の提供が大切である。

A校では実践あたり、教員にこのグラフを示し、全学で指導した。

[例]

繰り返し学習のグラフは、教員に納得され、指導に活用された例であり、次のような指導をされた。

① 繰り返し学習は数回必要である

1回の指導で分かる者は多くはいない。

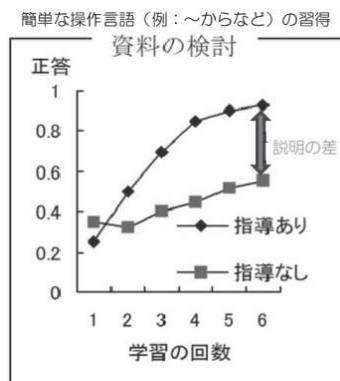
② 答え合わせだけでなく、簡単な説明をする。

簡単な説明をすることでグラフのように正答率に大きな差が出る。…各問簡単な説明 (毎回) 実施

③ 正答率が80%の時点 (または、グラフがフラットになったとき) で問題の程度を変える

正答者には発展的な問題を、誤答者にはより基礎的な問題を提供する。

④ 個別指導の重視 (個の学習状態を判断し、コミュニケーションを大切にしながら個別指導をする。)



[成果] デジタルアーカイブから得られた資料を参考にし、指導の結果、次のように学力が向上した。

① 学力は、図に示すように下位から上位へ、沖縄県の平均点より低かった (H25年度) が、実践で活用した結果1年間 (H26年度) で全国1位の県より学校の平均点が上へ

② 不登校児童0名 (800名中) となる

③ 点数の下位の児童が上位へ

④ 中学校の教員がA校の児童は変わった (よくなった) との評価

